

# ひまわりからの メッセージ

126号

2020.3.14

NPO ひまわりの花内  
西濃圏域  
発達障がい支援センター

発行人：中野なみ子

## 春の陽射しの中で

金柑と小鳥と



我が家は今、柑橘類が鈴生りです。雪で枝が折れたに  
もかわらず、八朔、夏蜜柑、金柑……と、今年は実が多く  
収穫しない私に代わって樹の方が「もう実ったよ、食べて欲し  
いなあ。」と言わんばかりに実を落としてくれています。

夏蜜柑はすっぱいので貰い手がなく、金柑は地面に落ちて  
どれどもが潰れているありさまです。八朔はというと、屋根にま  
で届いて、おまけに隣家の方に生い茂っているで、とうとう  
枝を伐り落とすことになりました。

そんな我が家なのですが、先日とはとても楽しい光景に出会  
いました。  
でくわ

忘れものをしてしまったので、お昼頃に自宅に戻りました。  
すると駐車場前の道に鳥がいます。すずめより大きく、か

らす程大きくない鳥です。鳥の名は分かりませんが、遠くか  
ら見ると、何か黄色いもので遊んでいるように見えます。車で  
少し近づいてみましたが、逃げ去る気配はありません。よく見  
ると、黄色いものは金柑です。鳥が一口ついばむと金柑はボール  
のように飛んでしまいます。すると鳥は金柑を追いかけて行っ  
て、また一口つきます。金柑は飛び、鳥はそれを追いかけて  
……ということを繰り返しているのです。まるで幼子が一人で  
ボールあそびをしているかの様で、余りのかわいさにしばらく見  
入ってしまいました。何だか私まで楽しくなってしまうと見え  
なかったのですが、仕事に行かなくちゃと車を前進させた途端  
に鳥は飛び去り、あとには皮の部分が半分位になった金柑かと  
り残されていました。私の目には遊んでいる様に見えたのです  
が、金柑の皮を啄んでいただけだったのでしょうか。でも私は、ふと  
母鳥になって一諸に金柑を飛ばして遊んだら楽しいだろうな  
と思ったことでした。

そういえば、子どもたちの遊びは近年ずいぶん変わってきま  
した。遊びにもいくつかの段階があり、母子の関係性からはじ  
まって、ことばや社会性の発達に欠かせないものですが、私た  
ちの日常は時間に追われてしまっで子どもたちとの時間がお  
やなりになってはいないかと反省させられます。

でもこの日は忘れものをしたお蔭で鳥とのひとときを共有で  
き、ほっこりと豊かな時を過ごすことができた幸せな一日でした。

サポートブックを通した  
(スマイルブックなど)

## 子育て支援について



そろそろサポートブックをもっている子どもたちの引きつぎ、  
会が終わりに近づいてきました。コロナ禍の中でしたが、何と  
か無事に終わらせようです。引きつぎ会に同席させていただい  
て、いくつか気になることがありました。

## 作成時の大切さ

まずサポートブックは、どこで作成されているのでしょうか。た  
だ保護者の方に渡しただけで作成された機関のかわり  
が全く見えてこないブックがありました。お子さんの名も家族  
構成もプロフィールも全く記入されていないブックもありました。  
そして、このお母さんは何のためにブックを作られたのだろ  
う。お子さんのことを分かっていこうとするのだろうか。わが子の  
実情をきちんと話し合われているのだろうか。……等々疑問  
に思うと同時に、「この方は本当にサポートブックが必要で  
あるという認識はあるのだろうか。作りたくなかったのでは  
ないか。」と思うようなケースもありました。  
サポートブックを作成する時に、ただ「こは記入しておい

て下さい。」と言って渡すのではなく、一緒に作成するものだ  
という認識を各機関がもつことが、まずスタートだろうと  
思います。

保護者の方の話を聞いていると、自分のお子さんのことをよく  
分かっていこうとするなあと、思う時もありますが、逆に、そのお子  
さんの支援としてなされてきたであろう具体的な支援が担任  
の先生の口から全く出てこないこともあって、驚かされるこ  
ともあります。

個別の支援計画はとめていないに、全てにわたって記述し  
ようと努力されていることは理解できますが、この子にとって  
大切なポイントは何かだったのか、ほやけてしまっていて、残念だな  
あと思うことや、小学校から中学校への引きつぎの時に、六年  
前と同じことをこのお母さんに伝えていけるなあと、思うこともあ  
り、子育ての難しさを感じ知らされることもあります。

## 中味の点検を！

保護者の方の中には、様々な書類をブックに綴じ込んでいっ  
やることがあります。中には通所施設の計画書・日程表ま  
で入っていたりしますし、通信が綴じてあることもあります。次  
の機関に引きついでいく前に、記入もれはないか、不要なもの  
はないか、先生方にも協力をお願いして点検してみよう。  
プロフィールの部分、園の記録、通所施設の記録、学校の支

援計画、発達検査や知能検査、その他の検査（視機能、感覚、フロー、MSPAなど）医療機関からの書類などは綴っておきまよう。相談支援事業所や放デイなどの書類は別ファイルで良いと思います。

本来、放デイの目的は生活力をつけていくことであって、塾のように学習支援をする所ではありません。宿題をおねがいします。などと学校の先生方がおっしゃるケースもあるようですが、その点は、よくお考え下さるといいでしょう。

## 家庭生活の見直し

今回、大垣のスマイルブック引きつぎ会では、保護者の方へかなり辛口のことを私は言ったと思います。学校への要望の場だと思ってお席された保護者の方には、少し期待外れだったかもしれません。けれど、子育ての主体は、保護者なのです。引きつぎ会を始めた当初は、まだ発達障がい特性も知られておらず、集団の中でのかわり方についても未知の部分が多かったと思います。ですから、多動な子を皆と一緒にさせようとして叱責がくり返されることも多かったでしょうし、言語的推理の弱い子に対することはかけも配慮されない状況も多かったと思います。だから学校への依頼も多かったのです。

でも、十数年経った今思うことは、家庭生活の見直しです。家庭のルールもなく親子の会話も少なくなつて、夜遅くまでゲ-

ム、ユーチューブをしても「ダメと言ってもやめないんです」「やめさせよう」とすると怒るので仕方ないんです」と、子どもの脳の発達に不可欠な睡眠が保障されていない現実があります。

自分の気持ちもことは表現することが苦手な子どもたちが起すトラブルに対して、語い数を増やし、豊かな心を育ていくために家庭でできることは何かと言えは、つたないことばであっても、子どもたちのことばをしっかりと聞いてあげ、そのことばに応じていく大人の側の対応です。もちろん学校でもやって下さるでしょうが、集団の中で出来ることは限られています。

## 自立に向けて



先日、ひきこもりの子（といっても成人です）をもつお母さんの相談を受けました。お母さんは、何とか就労させたいとおっしゃるので、日々の生活のことをたずねてみました。すると、家にいても息子さんは何もしないそうです。お母さんが身の回りの世話をし、レトルト食品をレンジに入れることすらしないというのです。

そんな人が自立していけるでしょうか。答はNOですよね。

「上げ膳据え膳」ということばがあります。食事の膳の用意や膳を下げることを転じて、自分では何もせず人にやってもらうことを意味します。さて、皆さんのご家庭はどうでしょうか。自分が食べるごはんやお汁くらいは、自分でよそい、食べ終わったら流し台まで下げるくらいは、今日からでも始められるの

ではないでしょうか。お子さんは王子様でも王女様でもありませんし、お母さんはお子さんの家来ではありません。何でも子に先じてやってあげることが親の愛情ではないでしょう。上手にできない時には手を貸すこともあるでしょうが、「見守る」という大切な事が私たちには課されています。

いつまでも母子分離できないとしたら、子どもの発達過程を見直す必要があるのではないのでしょうか。

不注意のある子は、うっかりミスも多いし、失くし物も多いでしょう。整理整頓、片づけの習慣を小さい時から身につけさせること、忘れ物をしないようにメモを取ることは高学年になれば考えていききたいものです。「の持った?」「△△を忘れてない?」と、いちいち指示していくのではなく自分で気づけるようにしていくことが大事でしょう。

ことは表現することが苦手な子には、「誘い水」をしてあげましょう。ことはを想起できるように選択肢を用意してみると、「あ、そうだ」と想起できることが多いものです。想起できても表現するとなると一語文(単語)や二語文が多いかも知れません。そんな時は、お子さんが想起したことをつなぎ合わせて文章にして「伝え返し」をしてあげるといいでしょう。きっとお母さん達も日々子育てで悩まれているので、はうから一人ひとりに合った具体的支援を示したいですね。



## R4年度 ピア・サポート事業について

西濃圏域発達障がい支援センターは岐阜県の五園域の一つで県の委託を受けて事業を展開していますが、先日、県の担当から令和四年度は「ピアサポート事業」をやっていくようにという仕様書が出されました。家の中にひきこもっている人や、なかなか人前に出てこれずに悩んでいる人たちに対して相談にのったり、オンラインを使って画面を通して対話したりしながら、同じ困りをもつ人たちがつながりをもていけるように支援していく事業です。暗中模索ですが各市町と協力しながら、まずは拠点となる居場所づくりから始めることになるでしょう。

う。コロナ禍で実施できない高校や大学との連携も進めていきたいですし、やりたいこと、やらねばならないことの多さに惑いつつ、迷いつつ歩を進めたいと考えています。

四月には新メンバーを迎えます。一緒に皆さんと歩んでいけたら幸いです。よろしくお願いいたします。

お知らせ

四月の親の会は四月十一日(月)九時三十分  
スイトピアセンター 六階二で行います。

